

健康文化

音の世界

若栗 尚

引っ越してから早いもので一年が過ぎた。新しい家にもだいぶなれてきた。毎日の生活もそれなりのリズムができていし、問題はない。周囲の騒音にもなれてきている。

ただ、困っているのは、二度の引っ越しで荷造りしたもののうち、小物が、まだ、完全に整理できていないことである。

今までにやってきたことのファイルなどは、ダンボール箱に印を付けて閉じたままのものが多し。捨てるにしても大丈夫だとは思っても、ある意味での愛着があるのと、今までの経験から、不思議なことに、捨てるとだいたい二週間以内にそれに関する問い合わせがあることが多かったことを感じているせいもある。

本の類は引っ越しですぐに整理して収納できた。それから後が大変である。なかなか、進まない。

最近になって、やっと二階の自分の部屋に棚を入れて、整理をする気になりかかっている。

同じ部屋の中にモニタースピーカーを入れてリスニングルームにしようと思っているがなかなか思うように進まない。

レコードプレイヤー、CDプレイヤー、テープレコーダーなども割合簡単に見つけだせたが、コード類がなかなか見付からない。それとそれぞれの配置がなかなか決まらない。また、ACアダプターや細かい工具類がなかなか見付からない。

あれやこれやで、まだ、セットアップできないでいる。

この他に、部屋の内部、壁、本棚、棚、その他を含めて、この六畳の小さな部屋の音響的な処理の仕方で迷っている。

小さな部屋では、壁その他からの反射は直接音に近接して耳にくることになる。直接音と反射音の時間差、距離差がない。こういう場合に一番無難なのは

反射面の吸音性を高くして、反射音のレベルを下げることを考えることである。

レコードやCD、放送などの制作時のミキシングは、それほど広い部屋で行われるものではないが、部屋は吸音性が高くなっていることが多い。聴いている位置もそれほど離れた位置ではない。六畳の広さならそれほど狭くはない。

反射音のレベルが高くて、直接音に近接していると、音色が微妙に変化する。一般的には、それほど気になるようなことはないが、気分的にも出来れば反射音のレベルを下げておきたいと考えている。

反射音のレベルを下げるには、反射面に吸音体をつければよいのだが、スピーカーと対面する位置にある本箱は、ガラスの扉があり、せいぜい、カーテンを前面に回すことぐらいしか手が無い。

壁面はボードの表面に壁紙が張ってあるだけで、その前面にスチール製の整理棚があり、この上にアンプ、チューナー、プレイヤーなどが並び、そのほかの部分にはファイルや受信機類、小物が入ることになる。

従って、処理できるのは棚の棚板と棚板の間に挟まれた壁面ということになるが、その棚板の上にもいろいろなものに乗ることになると、簡単には処理出来ない。

ファイルなどは、ある程度の吸音は期待できるし、置き方によっては、壁面に凹凸—あまり大きなものではない—が作れることにはなる。

天井はボードに壁紙が張られているが、多少の吊り下げ型の吸音体を取り付けることは出来るかと考えている。

実際には、カット アンド トライで決めてゆくより仕方がないだろう。

実は、どうやってもそれほどの差はないよということになるように思うのだが、いろいろ、ああでもない、こうでもないと考えている間が楽しいのであって、自分でもその辺は心得ている積もりではある。この辺が音屋の音屋たるところかもしれない。

前に書いたように、騒音の時にもそうであるが、人の聴覚は不思議なものでいったん気になり出すとその音だけが聞こえるような感じになる。

特に、そうなるだろうなどと考えている時には、そのことに対する聴覚の感度は自分でも信じられないくらい鋭くなっていることが多いように感じる。

大学に通っている頃、アンプを自作して使っていたが、気になり出すとほんとうに細かなことが気になって仕方がなくなる。そこで、改修を始めるのだが、二、三日で改修を終わり、聴いてみると、確かに前よりよくなっていると感じる。しかし、また、二、三日聴いていると前と同じところが気になったり、別の今まで全然気にならなかったところが気になって仕方がなくなり、また改修を始めるといふことの繰り返しであった。

もっとも、おかげで毎日やることがあって、ある意味で充実していたともいえる。

次に気になるのは、スピーカーの位置である。部屋の隅一床、壁面二面の接する部屋の隅一が普通にスピーカーの置かれる場所である。しかし、この場所はよく言われるように、置き方によっては、低音部の周波数特性に影響がでて、低音部に12DBにも達する大きな盛り上がりができることにもなる。この低音部にといふところが問題で、スピーカー二台の近傍の壁面の吸音性を上げてやろうとしても簡単にはできないことになる。

一般的には、部屋の大きさ、スピーカーの大きさなどで、スピーカーの位置は決まってしまうことになり、選択の余地はほとんどない。聴取位置からのスピーカーの見込み角を考えると、なおさら自由度はなくなる。

また、床面からの反射も聴取位置によっては、直接音との干渉で周波数特性上にピーク、ディップを作ることになる。

かといって、床面の吸音率を低周波部分で大きくすることは、普通の家庭の部屋では不可能に近い。せいぜいが厚手の絨毯に頼るぐらいしか方法がない。これでは、中高音域を吸わせるのがやっとなのである。

実際には、格別の方法を使わなくても、それほど気になるものではないことはよく経験していることではある。しかし、純音でスイープした伝送特性などを見せられると何となく気になる。

あまり気にしても仕方がないので、壁面、特にスピーカー近傍の壁面の吸音性を上げてやるぐらいで良しとするかと考えている。

スピーカーの高さも気になる場所である。使うつもりスピーカーは、調整室（音楽など録音するときにミキシングを行うための部屋）で使うモニタースピーカーで60cmぐらいの金属製のパイプでできた台の上に乗っている。本来なら、ツイーターとウーファーの二つのスピーカーの中央位か、ツイータ

一寄りに耳の位置が行くようにしたい。スピーカーの箱も大きいので、相当な高さになる。聴くときは、椅子の上でということになりそうである。

仕事の関係では、洋間で聴くことが多いが、自宅では、今までは、和室で聴いていた。和室の場合は、吸音という面では、全体的に洋間よりは多少吸音する方向にあった。聴くときも、畳の上に座ってという状態だった。当然、スピーカーも下に台はなく、床の間の上、畳の上であった。洋間で椅子の上で聴くということになると今までとは少し違った感じになる。

どちらがいいとか、悪いとかいうことではなくて、気分的な問題で、どのくらい変わるのかなと楽しみである。

音に関しては、人間は、普通、順応性が高くて、すぐになれる傾向がある。自動車の中で聴く音などは、きちんとした状態で聞く音に比べると大きな違いがあるのだが、それはそれで、違いはさほど気にならない。無意識のうちに、この状態ではこの程度の音ということで妥協してしまうようである。極端なことを言うと、インナーイヤーズのレシーバーで聴いても、それなりの満足はある。中波放送でも、テレビ放送でも、FM放送でも、切り替えたときにはその差に気づくが、聴き続けると、それなりに聴ける。しかし、違いがわからなくなっているのではない。違いは違いとして受け取ってはいるのだが、気にはならない状態である。

考えてみると、こういう無意識のうちの妥協、容認とでもいうものがあるおかげで、助かっている面が多いように感じる。良いもの、理想のものを求めることは大切なことであるが、どこかで妥協、容認することも大切なことのようなのである。

((財) 空港環境整備協会 航空環境研究センター)